

1. 科目名 (単位数)	社会科指導法 (2 単位)	3. 科目番号	SJEL3431 EDEL3316
2. 授業担当教員	小野 智一		
4. 授業形態	講義、討議、レポート、模擬授業	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	同一年度に「社会」を履修することが望ましい。 本科目で指導案作成と授業実践を中心とする課題に取り組む。「社会」においては指導要領について理解を深める		
7. 講義概要	小学校社会科の指導法に焦点化して、実践的な指導力を身に付ける。そのために、まず小学校社会科及び各学年 (3 年生以上) の目標と内容について、確実に理解する。次に、各学年の年間計画と各単元の指導計画の作成について具体的に検討する。さらに、これらの指導計画の学習をもとにして 1 単位時間の指導案づくりと模擬授業を行う。そして、これらの学習を通して、児童が社会的事象に興味・関心をもって、主体的に社会科授業に取り組み、確かな学力を身に付ける指導法について学修する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育課程の基本的事項について理解し、その知識を活用できる。 2. 学習指導要領の性格、教科書について理解し、教科指導法に向けて適宜参照できる。 3. 学習指導要領の改訂の歴史について理解し、現代日本の教育課程を位置づけられる。 4. 現行の学習指導要領の特徴を理解し、発展的に考察できる。 5. 教育評価の基本的事項について理解し、各評価の意義を考察できる。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 模擬授業① (第 7 回まで) 地域素材を活かした模擬授業 テーマ例 : 「地図記号」を教える授業、「廃棄物の処理」の授業 ・ 模擬授業② (第 9 回から第 13 回) 第 5 学年内容より事例単元「わたしたちの国土」を設定する。この単元の授業の一場面を実践する。 テーマ : 授業の中で、写真や統計資料などを使用する授業場面の実践 ・ 模擬授業③ (第 9 回から第 14 回) 第 6 学年内容より事例単元「武士による政治のはじまり」を設定する。この単元の授業の一場面を実践する。 テーマ : 「ご恩と奉公」 <p>※注意 模擬授業についてはレポート課題 (アサインメント) をかねております。使用した指導案、参考資料は、講義後提出を求めます。これに加え、授業実践後に振り返りレポート (評価対象) の提出を求めます。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 文部科学省『小学校学習指導要領解説〈平成 29 年告示〉社会編』日本文教出版、2018。(以下、シラバス内ではこの文献をテキストと呼称します。) ※春期科目「社会」(小野担当) にて使用するテキストと共用します。</p> <p>【参考書】 唐木清志 (編著) , 永田忠道 (編著) 『新・教職課程演習 第 11 巻 初等社会科教育』協同出版、2021 小学校学習指導要領 (平成 29 年 3 月告示 文部科学省) 比較対照表。 文部科学省『小学校学習指導要領解説 総則編』東洋館出版社。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 問題解決的学習について理解し、説明できるか。 2 社会科の学習指導案の形式・内容について理解し、学習指導案を作成できるか。 3 問題解決的学習を導入し、指導法を工夫して模擬授業を行うことができるか。 <p>○評定の方法 [授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業への積極的参加 総合点の 30 % 2 課題レポート・作成した資料・討論 総合点の 70 % 		
12. 受講生へのメッセージ	<p>受講生の多くは将来、小学校教諭を志すと推察します。小学校教諭の資質として、「子どもが好き」であること、「子どもの心身の成長を支援したい」という意欲とそれを果たそうとする責任感など様々あります。しかし、同様に大事にしなければならないこととして、本科目をはじめとする各教科の学習指導です。成長過程にある子どもは様々な学びをします。その学びの機会に、保護者以上に関わるのが小学校教諭です。これは、子どもを託した保護者との信頼関係を築くことにも影響が及ぶものです。本科目をきっかけとして、社会的な事象への関心を深め、「社会」のありようを伝え考えさせることができる様にしていきましょう。</p> <p>また、本科目では教科指導を通して、いじめ問題、キャリアデザインといった課題を解決することを考えていきます。学外の研究団体との交流なども機会を設け、教室と現実社会のつながりを味わわせられる授業づくりを目指していきます。学外での授業発表の機会も計画しています。</p> <p>本科目では、受講生に期待される学習態度として、以下の条件を設定しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 授業に集中してください。(積極的に参加、質問し、課題を残さないこと。私語・居眠りの厳禁) ② 欠席、遅刻、早退については、事由を教員に書面をもって報告してください。(事後に提出してください。事前は口頭報告するようにしてください) 正当な理由であっても、必要な時間数に不足する場合は、不合格となります。 ③ 明らかに受講態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行います。指導後も受講態度の改善が見られないと判断された場合、課題提出の状況如何に関わらず単位の修得は認めません。 ④ 教員による解説中は携帯電話の電源を切ってください。電子辞書等の学習支援機器は授業内容に応じて使用の許可を出すこととします。 <p>また、教員は次のことを実行します。</p>		

	<p>①授業の目的・目標を明確に示し、授業の進行はシラバスに沿って行います。</p> <p>②受講生全員に聞こえる大きさの声で話をします。また、専門用語はわかりやすく説明します。</p> <p>③一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加（発言・発表等）できる双方向対話型の学習環境を作ります。</p> <p>④遅刻・早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話（メール・通話）の使用その他、授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処します。</p> <p>本科目では、基礎的な学習習慣づくりにも取り組めます。講義時間内で作業指示がなされたときなどに他者の学習を阻害する行為をした場合は減点対象とします。受講生各自が社会人として自立成長しようという自覚を持って講義に参加することを期待します。</p>		
13. オフィスアワー	講義前後の時間もしくは e-mail にて対応します。 toonono@ed.tokyo-fukushi.ac.jp		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション 社会科とは何か～社会科の歴史と領域 これまでの社会科学学習の経験を踏まえ、社会科教育の目標を理解し、望ましい社会科指導法について考える。（シラバス確認しますので準備してください。コピーなど可。）	事前学習	これまで経験した社会科の授業を想起し、教科書「社会編」の目標等を読んでおく。
		事後学習	本時の学習を振り返り、社会科教育の在り方を整理する。
第2回	楽しい社会科授業とは（問題解決的学習を中心に）社会科の指導法の課題について学び、意欲的で楽しい授業づくりを考える。	事前学習	社会科教育の重要概念を調べる。
		事後学習	問題解決的学習を中心とする社会科指導の在り方を整理する。
第3回	1) 授業はどのようにしてできるか～教育内容と教材 教材の役割が大きいことを理解し、資料をもとに考えを深めることができる学習過程を学びあう。 2) 社会科学学習の学習過程の累型（探究学習を中心に） 指導計画の作成の仕方を知り、その視点から社会科指導の実際を記録から学び、話し合う。	事前学習	社会科の学習指導案を調べておく。
		事後学習	教材分析の仕方を整理する。
第4回	地域素材・時事問題を活用した模擬授業の計画 児童の実態を想定し、地域・時事問題を教材とした授業計画を立てる。資料収集のための役割分担をする。	事前学習	社会科学学習の指導計画の在り方を調べておく。
		事後学習	問題設定場面をどのように作るか整理する。
第5回	地域調査に基づき資料の整理をする 授業計画に基づき、現地調査や情報機器を活用した教材化を図り、模擬授業の指導案を作成する。	事前学習	現地調査の準備や、地域素材の資料について収集可能性を調べる。
		事後学習	指導案、学習資料を完成させておく。
第6回	時事問題の教材化の方法について 児童の実態を想定し、時事問題を教材とした授業計画を立てる。資料収集のための役割分担をする。	事前学習	時事問題について児童の実態に即した事例を調べておく。
		事後学習	指導案、学習資料を完成させておく。
第7回	模擬授業の実践 地域素材を活かした授業の指導案または時事問題教材の指導案をもとに模擬授業を行う。授業後、相互評価を行う。	事前学習	地域素材または時事問題についての指導案、学習資料を完成させておく。
		事後学習	グループの模擬授業の感想を書く。
第8回	教材・授業分析の方法 社会科の教材分析について、これまでの研究の成果を学び、自分なりの考えを持てる。	事前学習	過去の研究論文から教材分析の方法を調べておく。
		事後学習	教材分析の方法を整理する。
第9回	模擬授業（単元指導計画と本時案） 社会科の小単元計画「わたしたちの国土」「武士による政治のはじまり」について学び、児童の発達段階に即し、情報機器の活用を想定した学習指導計画を立てる。	事前学習	小単元計画と本時の展開を構想しておく。
		事後学習	基本的な形式を整えた学習指導案を作成する。
第10回	模擬授業（評価の具体的な手立て） 評価規準を確定し、学習目標を明確にするとともに、学習指導案に評価の観点、評価内容、評価の手立てを明示する。	事前学習	目標及び評価規準について調べてくる。
		事後学習	目標、指導上の配慮事項における評価の場面と手立て、評価規準の整合性を確かめ修正しておく。
第11回	模擬授業（社会科指導と教材の役割） 教材分析を行い、子どもに何を学ばせるのか明らかにし、教材の適切な選択を行う。	事前学習	必要な資料の準備と分析を行っておく。
		事後学習	教材の意義について、話し合ったことをまとめておく。
第12回	模擬授業（指導と発問） 指導上の留意点を理解し、本時の展開を構想し、主発問や補助発問を考え模擬授業の指導案を作成する。	事前学習	発問の意義について調べる。
		事後学習	模擬授業の具体的な発問を整理し、まとめておく。
第13回	模擬授業（地理・産業分野の授業展開） 「わたしたちの国土」の授業実践 情報機器や教材の活用を含めた指導案をもとに、模擬授業を行い、授業後は相互評価を行う。	事前学習	地理・産業分野の授業展開を考えてくる。
		事後学習	地理・産業分野の模擬授業を行い、相互評価したことを整理する。

第14回	模擬授業（歴史・公民分野の授業展開） 「武士による政治のはじまり」の授業実践 情報機器の活用を含めた指導案をもとに、模擬授業 を行い、授業後は相互評価を行う。	事前学習	歴史分野の授業展開を考えてくる。
		事後学習	歴史・公民分野の模擬授業を行い、相互評価したことを整理する。
第15回	社会科指導法のまとめを行う。 新学習指導要領が目指す社会科教育のあり方を考える。	事前学習	模擬授業から得られたことを整理してくる。
		事後学習	社会科指導法で学んだことを今後どう生かすか、レポートを書く。